

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	衣料品専門店 （店長）	来客数の動き	・残暑が厳しく、スーツの需要が高まっていないこともあつて、売上には結び付いていないものの、平日の来客数が増加している。客の購買意欲が上向いていることがうかがえる。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・夏の観光繁忙期である8月の航空機利用者は、国内線も、国際線も前年を上回り、増加傾向を維持している。9月に入ってから、荒天の影響で一部の便で欠航が生じたものの、観光客や帰省客が堅調に推移している。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・当地の主要産業である農業について、前年並みの作況となっていることが、地域経済にとって明るい材料となっている。このため、景況感は好転している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・9月に入り、国内観光客及び外国人観光客を見かけるようになってきた。ただし、土産品を購入している姿や買物をしている姿は余りみられなかった。例年であれば、比較的混雑している飲食店も、客が並んでいる様子はみられなかった。当区域を歩いている地域住民もまばらであり、景気の悪い状態が続いている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・9月になり、暑さもようやく落ち着き始めたことから、客足が徐々に回復傾向にある。ただし、物価高やガソリン価格高騰の影響が続いていることから、消費マインドの低下は否めない。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・売上は、2024年比で102.4%、2023年比で116.7%、2022年比で202.1%、2021年比で426.1%、2020年比で388.2%、2019年比で141.9%となっている。自然災害に強い土地であること、晴天の日が続いたことなどがプラスに働いたとみられる。ただし、国内からの観光客は減ったままである。当地の街づくりに当たっての努力不足が要因とみられる。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・売上の増減に季節要因が大きく影響していることから、景気は変わっていない。今後しばらくは低調に推移することになる。
	□	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・株価が上がっていることで、富裕層による高単価商材の購入が好調なものの、物価高の影響でボリュームゾーンの商材の購入が伸び悩んでいる。全体的にみると、景気は変わらない。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・一時期落ち込んだインバウンドの来客数は回復傾向にあるものの、購買点数をみると、以前ほどの勢いはなくなっている。客単価も横ばいで推移している。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・物価高の影響が根強く残っており、消費者の儉約モードが続いている。
	□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・主食の弁当、パンなどの販売量は維持しているものの、嗜好品の飲料、ビール、アイス、チョコレートなどは減少している。客の生活防衛意識が強まっていることがうかがえる。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の減少が続いており、大きな変化がみられない。
	□	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・依然として、物価の上昇が続いていることから、客が消費を控えている様子がうかがえる。景気の厳しい状況が続いている。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売店としてマネジメントをしっかりと行うことができれば、業績が安定するようになっている。景気よりも、運営サイドのマネジメントに左右される面が強くなっている。
	□	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・イベントを開催することで客は集まるものの、購入には余りつながっていない。メーカーからの割当て台数の問題で、客が欲しい車種を自由に販売できないなど、いろいろな要因が影響しており、こうした状況が改善されない限り、景気は変わらない。

☐	乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・新車や中古車の販売状況は良くなっていない。車を見に来店する客も減っている。サービス部門については、一定の収益があるものの、全体的にみると、景気は良くなっていない。
☐	自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・9月は、冬タイヤの販売を集中的に行ったこともあり、売上は前年比130%となり、想定を50%上回った。ただし、冬タイヤは消耗品として扱われる商材であるため、判断に難しい面がある。そのため、景気に大きな変化はみられない。
☐	住関連専門店 （役員）	販売量の動き	・3か月前と比べて、売上の前年比に大きな変動はみられない。販売動向をみる限り、景気が良くなっているとも悪くなっているともいえない状況にある。
☐	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・販売価格などについて、特に変化はないことから、景気は変わらない。
☐	その他専門店 〔造花〕（店長）	お客様の様子	・原材料などのコストが高騰していることで、商材の価格上昇が抑えきれない状況にある。価格上昇の影響は大きく、客の買い控えにつながっている。
☐	高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・9月は地域の食のイベントが開催される時期であり、例年であれば、その影響で売上が減ることになるが、今年は前年を上回りそうな動きとなっている。客層をみると、顔なじみの客が少なく、若い世代の新規客が多かったことから、例年よりも気温が高いことで、冷房の効いた店内を求める客が増えたと考えられる。一方、年齢の高い顧客が減っていることで、マナーの良い客ばかりではなくなっていることが気掛かりである。地方のホテルや飲食店では、従業員不足が深刻なことから、作業の簡素化が進んでいる。ある飲食店では、販売量の少ないメニューに、売り切れシールを貼るようになり、あるホテルでは、前日夜に冷蔵した朝食弁当を当日朝にフロントスタッフが用意するようにしている。
☐	スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数も売上もほとんど変わっていない。これから景気が良くなるかどうか分からない。
☐	観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・来客数について、例年と同様の傾向で推移している。
☐	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・来客数はやや減少しているものの、客単価がやや上昇していることから、前年並みの売上となっている。
☐	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・8月と比較して、来客数に大きな変化はみられない。9月の全体売上についても大きな変化がみられない。
☐	タクシー運転手	来客数の動き	・一般客の利用についても、イベント関連での利用についても、余り変化がみられなかった。
☐	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・例年9月に発売する通信端末について、客からの引き合いが例年並みとなっている。また、地域や場所にかかわらず、当地全体で同様の傾向となっているため、景気は変わっていない。
☐	観光名所（従業員）	来客数の動き	・当施設の利用者数をみると、過去最高を記録した前年とほぼ同水準で推移しており、9月も高水準を維持している。インバウンドについては、個人客化が進んでいることで、以前のような爆買いではなく、質の高さを求めるようになっており、単価の高い土産品やメニューの動きが良くなっている。また、大都市圏の宿泊費が高騰していることで、当地への修学旅行が回復している。
☐	住宅販売会社 （経営者）	販売量の動き	・引き続き住宅着工は低調に推移している。物価高や燃料価格の高騰に変化がみられないことから、原材料価格も高騰したままであり、それにより需要が落ち込んでいる状況が続いている。
☐	住宅販売会社 （経営者）	お客様の様子	・今後も新築分譲マンションの価格上昇が見込まれるなか、割安な中古物件が減っていることで、比較的低価格の物件を中心に、客の購入申込みが増えている。
☐	住宅販売会社 （従業員）	単価の動き	・依然として建築単価が高止まりしていることから、景気は変わらない。

▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・賃金の引上げが、食料品や生活必需品の物価上昇に追いつかない状態が続いていることから、客の儉約志向が強くなっている。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子は決して良いものではない。全ての物の価格が上がっているため、客の反応が非常に悪くなっている。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・商品の値上げが続いていることで、客単価は上昇しているものの、客1人当たりの買上点数が前年を下回る状況が続いている。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・価格の高騰が続いていることから、景気はやや悪くなっている。
▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・前年と比べて、月全体の降水量が1.5倍と多かったことから、来客数に影響が出ている。9月は秋の行楽シーズンとなるものの、行楽商品の売行きも鈍化している。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・様々な商品で値上げが続いているため、販売量の動きが非常に厳しくなっている。新米が出回るようになって、米の価格が一段と高くなっていることで、買い控えが進むことも懸念される。今後の景気も今より悪くなることが懸念される。
▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・顧客はそれなりに来店しているものの、振り客が大幅に減少している。
▲	衣料品専門店（エリア担当）	販売量の動き	・朝晩の気温は下がってきたが、日中の気温が高めで推移していることから、前年と比べて、売上と客単価の動きが厳しくなっている。また、食品や光熱費の値上げが報道で取り上げられていることから、衣料品への支出が一層控ええられることが懸念される。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車発売前の買い控えがみられる。また、賃金の引上げに伴う人件費負担の増加に伴って、今後の物価が一段と上昇することが懸念される。このため、新型車の販売量が大きく伸びることは考えにくい。
▲	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・自社取扱商品に限らず、全体的にインフレ状態が継続している。また、賃上げに伴いサービス部門の工賃も上昇していることから、価格の安い専業他社に、客が流出する傾向が強まっている。
▲	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・顧客が高齢化しているため、来客数の動きが天候に左右されるようになってきている。また、顧客の高齢化に伴って、個別相談が増えていることから、早急に対応策を講じていく必要がある。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・レストランの来客数は安定的に推移している。ただし、観光のピーク時期を過ぎたことから、土産品などの物販が落ち込んでいる。
▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・当地の主要産業である農業において、夏の気温が例年よりも高かったことから、作物が不作傾向にある。その影響で、旅行需要が前年よりも弱い動きとなっている。また、大阪・関西万博への団体客が、想定より少なかったこともマイナスである。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・今年の夏は気温が高かったことから、タクシーの利用が前年よりも増えており、タクシー1台当たりの売上も前年比プラスであった。一方、9月になり、涼しくなると、タクシーの利用が落ち着き、タクシー1台当たりの売上は前年並みにとどまっている。ただし、乗務員の採用に注力した効果で、ドライバーが前年より増え、タクシーの稼働台数も増えていることから、会社の売上は前年比プラス20%であった。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・地域の大きなイベントが一段落したことから、人流が停滞している。また、乗務員不足も顕著であり、経営に苦慮している。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・新米が予想以上の高値となり、主力農産品のじゃがいもや玉ねぎなどの価格も高騰している。そのため、価格に対する客の意識が強まっており、9月の売上は低迷している。最近では、予約のときに値上げをしていないか尋ねられることも増えている。

	▲	美容室（経営者）	それ以外	・景気はやや悪くなっている。当社のみならず、周りの自営業の経営者からも経営難という話を聞くことが増えている。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・ツアー客の減少に加え、天候の悪化による欠航があったことから、輸送量が大きく減少している。
	×	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・例年よりも暑い日が続いていることから、来客数の動きが鈍くなっている。
	×	スーパー（店長）	お客様の様子	・9月に入っても商品の値上げが続いているため、客の財布のひもがますます固くなっている。また、冬になると、暖房に灯油が必要になるため、貯蓄に回っている金も多いとみられる。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・大阪・関西万博の影響で、国内からの団体客が減少している。インバウンドは、大災害の予言の影響がいまだに続いており、大幅減となっている。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較すると、販売量は大きく回復している。ただし、8月と比較すると、横ばいでの推移となっている。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	取引先の様子	・主要取引先である建設業界において、人手不足問題はあるものの、国内建設投資が堅調なことから、受注条件が改善傾向にある。取引先によるばらつきはあるものの、全体としては堅調に推移している。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国や農業団体などからの発表があるわけではないが、今年の農産物について、猛暑、干ばつ、大雨などの影響が大きいとみられることから、引き続き厳しい状況にある。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量の減少が続いている。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・案件はあるものの、人材不足のため、思うように業務を受注できない状況にある。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・これまでのところ、天候に恵まれていることから、各現場の工事の進捗に遅れはみられない。完成工事高が計画を上回るペースで積み上がっている状況は変わっていない。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・トレーラ輸送については、紙パルプがやや停滞しているものの、農産品関連で新物の出荷を控えて、前年産の荷動きが増えている。また、本州からの雑貨についても、まとまった数量の荷動きがみられている。ただし、7月末の津波警報や大雨の影響により、本船ダイヤが大幅に乱れたことで、各拠点にコンテナ専用の台車が滞留していることがマイナスとなっている。集配の調整を余儀なくされており、その分のコストが増加している。
	□	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・例年であれば、輸送や倉庫保管の依頼が増える時期であるが、今年は農作物の出荷状況が余り良くないことから、例年ほどの発注がみられない。
	□	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・既存取引先からの受注量は微増傾向にあるものの、新規客からの引き合いや受注が微減傾向にある。全体的な販売量や取引額は3か月前と比べて変化がみられない。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・原材料価格や仕入価格が上昇していることから、販売価格への転嫁を進めているものの、販売量が減少しているという企業の声を聞くことが3か月前から増えている。9月も同様な声が多いことから、景況感が変わっていない。
	□	広告代理店（従業員）	取引先の様子	・受注につながった案件と受注に至らなかった案件が同じくらいの割合となっている。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・取引内容や取引先の様子から、業種にかかわらず、景気が上向いているような様子をうかがえない。

	□	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 （従業員）	受注量や販売量 の動き	・ここ数年、主力商品の販売量が少しずつ減少している。特に主要取引先である建築鉄骨関連市場の動きが悪い。建築コストの上昇により、計画の中止や規模の変更なども生じている。
	▲	金属製品製造業 （従業員）	受注量や販売量 の動き	・新築戸建て住宅の着工棟数について、前年比で12%程度の減少が続いている。
	▲	司法書士	受注価格や販売 価格の動き	・いまだに物価高が続いている。建築資材や食品だけではなく、紙や日用品までも値上がりしていることから、景気はやや悪くなっている。
	▲	司法書士	受注量や販売量 の動き	・3か月前と比較しても、前年と比較しても、販売量がやや減少している。周りの様子をみると、特に不動産取引が停滞している。
	▲	その他サービス 業〔ソフトウェア開発〕（経営 者）	競争相手の様子	・知人の会社から、自動車関連の仕事で受注を逃して、人が余っているとの相談を受けた。
	×	—	—	—
雇用 関連 （北海道）	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社 （社員）	採用者数の動き	・求人数は堅調に推移している。企業の採用意欲は強く、人材との面接依頼の件数が3か月前の倍近くまで増えている。ただし、選考基準の厳しさは、人手不足の状況でも変わっておらず、採用に至る人数は大きく変わっていない。人材の働く意欲に対する企業の評価もそれほど高くないようにみえる。また、人材側が細かい条件を求めるため、ミスマッチとなっているケースも散見される。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	採用者数の動き	・建設やスーパー、小売、娯楽、派遣など、一部の業種では求人数が堅調に推移しているものの、全体的には求人件数が伸び悩んでいる。また、各社の採用人数について、以前と比べて押さえ気味だという話を聞く機会が増えている。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・季節要因を除くと、全ての業種で3か月前と大きな変化はみられない。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	周辺企業の様子	・多くの取引先で活気の乏しさがうかがえる。人件費、経費の高騰を要因として、増収減益となっている企業が目立つ。
	□	職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から6.4%の減少と2か月連続で前年を下回り、月間有効求人数は前年から3.1%の減少となったものの、求人数の落ち込みが大きいとまではいえない状況にある。
	□	職業安定所（職 員）	求人数の動き	・当地における8月の有効求人倍率は0.79倍であり、前年を0.01ポイント下回り、4か月ぶりに前年を下回った。
	□	職業安定所（職 員）	求人数の動き	・3か月前と比べると、求人数は減少しているものの、例年と比べると、特に変化はみられない。
	□	職業安定所（職 員）	求職者数の動き	・新規求職者数に大きな変化はみられないことから、景気は大きく変わっていない。
	□	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	・企業の採用意欲に変化はみられない。求人数も安定して推移している。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—